

「社会参画できる力」の育成を目指した「市役所プラン」の取組 ～富士市立高等学校の総合的な学習の時間「究タイム」の核として～

富士市教育委員会

1 富士市立高等学校改革基本計画

富士市立高等学校は、富士市教育委員会が学校改革に向けて平成17年度から検討を始め、平成23年4月に開校した。「富士市立高等学校改革基本計画」が平成21年6月に策定され、次にあげる「目指す学校像」、「育てたい生徒像」の実現を目指している。

(1) 目指す学校像

- ① コミュニティー・ハイスクール
- ② 夢実現高校（ドリカム・ハイスクール）
- ③ 探究の精神に満ちた高校

(2) 育てたい生徒像【自律する若者】

- ① 自らが見出した夢の実現に向け、主体的に学び、探究し続ける生徒
- ② 多くの人との交わりの中で、互いを尊重しながら自らを表現できる人間性豊かな生徒
- ③ 国際的視野に立ち、高い見識を持って、富士市や社会に貢献できる生徒

2 総合的な学習の時間「究タイム」の概要

育てたい生徒像に掲げられている、「社会に参画する力」「多様な価値観を受容する力」「課題発見・課題解決力」「協働的に課題解決できる力」の育成の核となる学習として、総合的な学習の時間「究タイム」を実施している。3年間を通して、様々なテーマと向き合いながら、探究的な学習が段階的に高まるように単元設定されている。

(1) 第1単元「序」（1年生前期）

ブレインストーミング、KJ法など、課題を見つけ、情報を集め、表現するための基本的な方法を学ぶ。

(2) 第2単元「論」（1年生後期）

ディベートを行い、多角的な物事の見方、論理的な考え方を学び、協同して課題を解決する力を身につける。

(3) 第3単元「活」～市役所プラン～（2年生前期）

富士市が抱える課題に取り組み、高校生としての解決策を練り、プレゼンテーションする活動を通して、地域の一員としての意識を高める。

(4) 第4単元「究」（2年生後期）

これまで学んだ知識や技能を活用して、自分自身が興味のあるテーマについて探究する。

(5) 第5単元「夢」（3年生前期）

探究学習の仕上げとして、自分自身の人生プランを考え、そのための進路を具体的に考える。

3 総合的な学習の時間「究タイム」の特長

(1) カリキュラムの特長

- ・3学科（総合探究科、ビジネス探究科、スポーツ探究科）共通の内容で実施している。
- ・「総合的な学習の時間」と「情報」を関連させた指導計画を作成している。
- ・校外学習や外部講師の招請をしている。
- ・年度当初に、単元オリエンテーション（4～6時間）を設定している。

(2) 校内組織の特長

- ・「総合的な学習の時間」の計画・連絡調整を担当する分掌「企画研究課」を設置している。
- ・全ての授業を2名のティームティーチングで実施している。
- ・授業担当者会議を時間割に位置づけている。

(3) 学習環境の特長

- ・「探究学習」の授業では、必ずPC教室が利用できるよう、教室が配当されている。
- ・学校図書館が、グループでの協議・制作を行う場としても活用されている

平成 25 年度 探究学習「究タイム」 第 2 学年 前期単元計画

1 単元名 第 3 単元「活」 ～市役所プラン～

2 単元の目標

地域住民の一人として、地域課題とその現状を知り、その解決に向けて何をすればよいかを理解し、その解決に向けて自ら行動できる力を育成する。

3 指導の形態

(1) 授業集団 クラス別にテーマ設定し、原則としてクラス単位で授業を展開する。

(2) 活動単位 生徒 4 人 (3 人) を単位とする班別の活動を基本とし、単元を通して同じグループで活動する。

4 指導計画 (4 2 時間) ただし「情報」の授業時数を含む

	主な学習活動	形態・場所等	指導上の留意点
「第 1 単元 地域課題の現状を知る」	単元オリエンテーション (4 時間) 4/9 (火) ・単元の目標、本日の活動の確認 ・市及び市職員の役割・心構えを知る ・課ごとに関係する基本政策を知る ・グループ内で基本政策について発表 (プレゼンシート) ・活動の振り返り (ワークシート)	視聴覚ホール 各教室	・新たな人間関係の中での活動が円滑に進むように配慮する ・
	先進的な事例を調査する (2 時間) ・全国の地域課題解決に向けた先進事例を調査する ・発表用のプレゼン資料を作成する ・グループ内で先進事例を発表する	情報処理室等	
	プレゼンテーションの技術を知る (6 時間) ・パワーポイントの使い方を知る ・効果的なプレゼンテーションの方法を知る ・グラフの作成や活用方法を学ぶ ・パワーポイントを使って資料を作成 ・グループ内発表	情報処理室等	・オリエンテーションで作成したプレゼンシートを活用する
「第 2 単元 具体的な地域課題を発見する」	校外学習に向けて準備する (5 時間) ・訪問先の課題と取り組み調査し、訪問場所を選ぶ ・調査の結果を班で共有し、班としての課題を絞る ・事前学習として専門家から学ぶ 5/24 (金) or 27 (月) ・事前学習で学んだことを整理し、質問項目を班でまとめる ・校外学習の事前準備をする	各教室	・各課、各訪問先での活動に向けて、学習内容を調整する
	校外学習 (3 時間) 6/11 (火) ・観光課 しらす街道、吉原商店街、富士本町商店街 ・防災課 吉永まちづくりセンター、市防災危機管理課、 県危機情報課 ・環境課 市環境保全課、市廃棄物対策課、イワマワークス ・健康増進課 吉永まちづくりセンター、富士駅北まちづくりセンター ヤマスポーツクラブ	市内各所	・写真やビデオ等を活用して、現地での様子を記録するよう指導する
	解決すべき課題を絞り込む (1 時間) ・校外学習で収集した情報を整理する	情報処理室等	・各生徒が収集した情報を共有させる
「第 3 単元 地域課題の解決に向けた活動を計画する」	中間発表会の準備をする (5 時間) ・グループで情報を共有し、グループ課題を決める ・解決すべき課題が解決できる方策を出し合う ・出した方策のメリット・デメリットを挙げて比較する ・これまでの活動の経過と今後の活動をまとめる ・発表資料を作成する	各教室 情報処理室等	・校外学習を通して得た課題を共有し、グループ課題を設定し、休業中の活動について考えさせる
	中間発表会 (2 時間) 7/9 (火) ・クラス内でここまでの取り組みを発表する ・発表を振り返り自己評価する	各教室	
	中間発表会を振り返る (1 時間) ・中間発表会で新たに気付いたことをグループで共有する	各教室	・発表から得た課題を共有する
	探究学習指導 (2 時間) 7/18 (木) ・今後の活動についてガイダンスする ・夏季休業中の活動計画を作成する	視聴覚ホール 各教室	・休業中の活動等について説明する
	計画した活動を実施する (夏季休業中) ・計画した活動をグループ・個人で進める	各活動場所	・休業中の活動を報告書にまとめて提出
	探究学習発表会の準備する (4 時間) ・休業中の活動を報告する ・発表資料を作成する ・発表の練習をする	各教室 情報処理室等	・休業中の活動から得た結果を反映させて発表資料を作成する
	探究学習発表会 (2 時間) 9/27 (金) ・課を横断して半期の取り組みを報告する ・他のグループの発表から学んだことをまとめる	各教室	・発表を相互評価する
単元を振り返る (1 時間) ・半期の活動を振り返り自己評価する	各教室	・課題として残ったことを明確化する	

平成 25 年度 探究学習「究タイム」 第 3 単元「活」～市役所プラン～
ワークシートと授業の様子

1 探究学習オリエンテーション①



①辞令の交付（代表生徒へ）

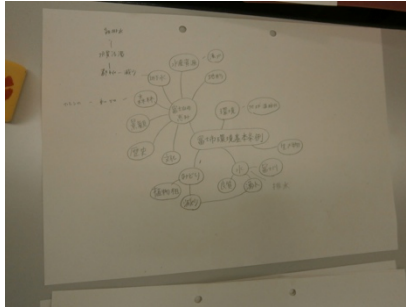


②市役所職員からの話

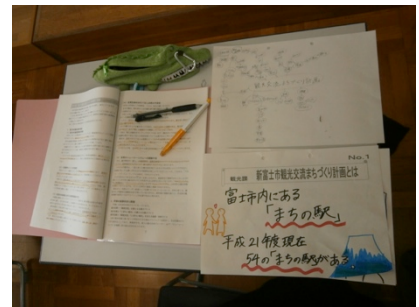
2、3 探究学習オリエンテーション②③



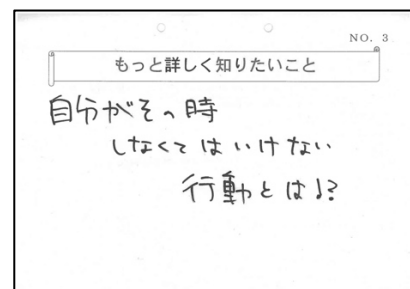
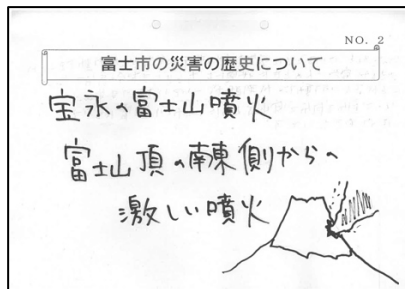
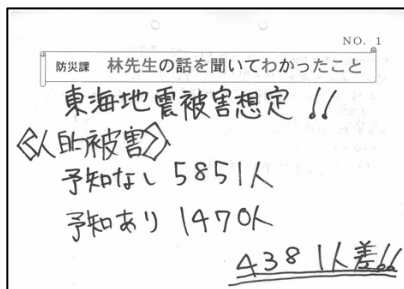
①各課の基本政策を学ぶ（防災以外）



②基本政策をウェビングでまとめる



③プレゼンシートを作成する



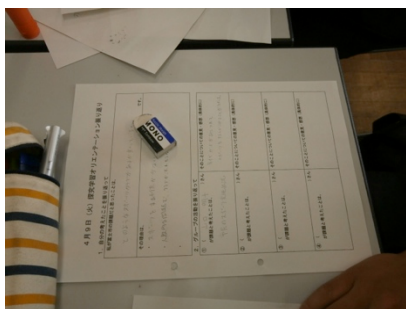
③で作成したプレゼンシート

- ・基本政策を読み込み、概要をウェビングでまとめ、そのなかで特に興味のある部分を絞ってプレゼンシートにまとめる。
- ・プレゼンシートの裏に発表用の原稿を書き込み、紙芝居形式で発表する

4 探究学習オリエンテーション④



①グループ内プレゼン①



②振り返りシートに記入



③全体発表

4月9日（火）探究学習オリエンテーション振り返り

1. 自分の考えたことを振り返って

私が富士市の課題だと思ったことは、

交通機関が少ない、更に工業イージの定着化です。

その理由は、

- 町中が交通機関がとれていない
- 時間があきすきしている
- えとつからまのりけすりが水蒸気で無害ということがあまり知られていない

2. グループの活動を振り返って

① ()さんが課題と考えたことは、 工業都市イージの定着化	そのことについての意見・感想（具体的に） とにかくえとつからまのりけすきしているけれど、くまがよごれていると思われてしまうというのは同感です。
② ()さんが課題と考えたことは、 市内交通アクセスの不備	そのことについての意見・感想（具体的に） 交通アクセスが少ないというのは正論。もとより、よごすれば活性化するという意見がありました。
③ ()さんが課題と考えたことは、 工業都市イージの定着化	そのことについての意見・感想（具体的に） えとつがあることにより、かごころ場所が少ないと思われるという意見はとにかく、えとつなと思いました。
④ ()さんが課題と考えたことは、	そのことについての意見・感想（具体的に）

探究学習オリエンテーションの振り返りシート

5、6 先進的な事例を調査する①、②

1つ目

課題「地震時の対応、地震後」

取組みをしている地域または企業・機関（役所やNPOなど）
()県・府・都・道 ()市町村
企業・機関名 (NAVEP)

取組み
地震に遭遇したときの対応法を知っておけば慌てずにいける。


内容
・揺れが収まった後、人命救助よりも火の始末、消化が最優先。
・前から地震がきたときのために家族で落ち合う場所を消滅しておく。
・災害時での車は使用しない、安全地帯に停車して車を降りる。
・エレベーターに乗っていた場合、階数ボタンを全に押し止めた状態で降りて、階段で避難する。
・家を出るときは、必ずブレーカーを落とす。
・家の中で比較的安全な場所はトイレ。

全国的な先進事例をインターネットを活用して、生徒個々に2つ程度調査し、グループ内で発表した。

11、12 プレゼンテーションソフトの技術を知る⑤⑥


富士市スポーツ振興計画とは
 国としてのスポーツのあり方

スポーツ環境作り




課題に感じたこと

- スポーツや運動ができていない



その課題に興味を持った理由

生涯スポーツを推進していく上で
 たくさんの年代の人が
 スポーツを行って欲しいから



全国の先進的事例

- スポーツ振興主祭のイベント

さわやか健康教室(60歳以上)・お気楽体操教室(60歳未満)・富士のふれあいウォーク・親子スポーツ教室・子育てママさん体操・富士市民水泳教室・ウォーキング教室・ドッチビー教室・富士登山・富士駅伝競走大会・ウルトレイル・マウントアジ・静岡市町村対抗駅伝競走大会・ふじかわキウイマラソン

まとめ

- スポーツができていないので全国的にも改善取り組みを行っている
- 気軽に誰もがスポーツできるような機会を作っている
- 少しでも多くの人ができるように地域で参加していくのがいいと思う

「2、3単元オリエンテーション②③」で作成したプレゼンシート、「5、6 先進的な事例を調査する①②」で調査した先進事例をプレゼンテーションソフトでまとめた。

13、14 校外学習に向けて準備する①②

2. 校外学習先について調べる

防災：A 東日本大震災において、被災地で問題となった事柄や被災者が困った事柄について調べる。
 B どのような対応をしたか、どうやって解決したかなど、対応策についても調べる。

	A 被災地で問題となった事や困った事など	B 対応策など
自分で調べたこと	<ul style="list-style-type: none"> 震災の被害、地震、原発事故に影響されたことは大変多かった。避難所、問題行動が発生している。 犯罪の種類としては「災害の時に発生する犯罪(食品持ち出し等泥棒)」や「食料不足などの要因から、生存手段として止めを得ずに行われた犯罪」などがある。 震災後に増えた傾向の「原種商法」や「原種商法」といって、悪徳商法や、「借金詐欺」「養老金詐欺」などがある。 留守老人の「空き巣」や休業中の商店・金融機関に侵入する「店舗荒らし」「自販機荒らし」や、海外での解体販売を即時に入国した外国人による被災車両の盗難が発生している。 大井町町の登山で3月21日に震災の最中に発生した。日本に発生した初めての事件が発生した。 	<ul style="list-style-type: none"> 警察庁、警察庁、消防庁(国民生活センター)がホームレスや報道を通じて防犯の注意を呼びかけている。また内閣府が震災ボランティア連絡会のサイト「助け合いネットワーク」を通じて事業者で情報提供を行っている。 国民生活センターは3月27日に「震災に関連する悪徳商法(10巻)」を開発した(主に東北3県にだけ)消費者庁に提供) 宮城県石巻市では個人店・企業・金融機関へのバリアフリー等備強化策策によるパトロール強化 仙台市ではコンビニエンスストアやスーパーでは、店内が見えないように、ガラス窓に新聞紙などを貼って防犯している 岩手県陸前高田市では、災害事件を未然に防ぐために被災地に防犯カメラを設置して火災の調査業務で保管している。

個人で調査したことを、班内で報告し合い、新たに得た情報を追記する。

班員と情報共有で追加したこと	<p>震災のゴミ、母国でのいじめ行為</p> <p>情報手段にツルギのフチナツクなど、仕事が無くなった人がいる。</p> <p>消防車が道に色ははらして通れなくなった。</p>	<p>物資のつたつて色園がたがたがた</p> <p>児童相談所、改善。</p> <p>液状化</p>
----------------	--	--

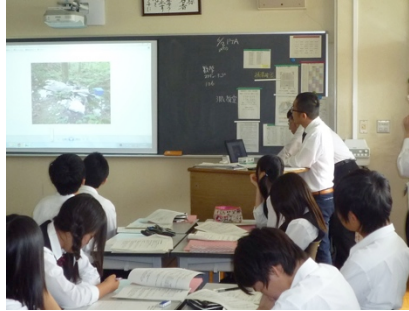
15 校外学習の事前学習として専門家から話を聞く

市役所の担当者の方から、プランには書かれていない現状について、具体的に話をさせていただくことで、校外学習での視点を明確化する。

防災：富士市防災危機管理課
主査 横山健太 様

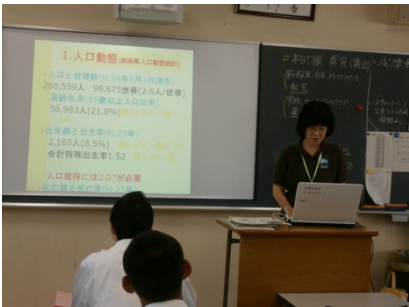
環境：富士市廃棄物対策課
主査 渡邊雄史 様

観光：富士市観光課
上席主事 鈴木博之 様



健康：富士市健康対策課
主観 白川実千代 様

健康：NPO 法人富士スポーツクラブ
代表 青山剛 様



16 校外学習に向けて準備する④

授業12 事前学習のまとめ
(観光) 課 () 組 () 班 班長氏名 ()

1 講師の先生のお話を聞いてわかったこと、学んだこと


- ・産業が右肩下がりなので観光課を×した。
- ・PVIは富士市だけじゃない
- ・手段は問わない
- ・五年前に観光課
- ・写真撮る人のマナー悪い
- ↓
- ・サポーターズクラブ
- ・コンテスト 祭りたくさん
- ・環境に対しての弱見が多い
- ・シャッターが多い
- ・工場が多く良くも悪くも
- ・長期的イベントを求めている
- ・マイク調節大切
- ・ツイッター始めた
- ・外人を求めている
- ・名所がない(観光スポットがない)

事前学習で学んだ情報を整理する

2 疑問に感じたこと、もっと知りたいと思ったこと

- ・富士市の全て
- ・観光課の実体験
- ・富士祭ソビニでやるの
- ・ソビニホリタンをなぜ??
- ・男の人の本当の奥さん
- ・二人のことをもっと知りたい
- ・特産物 調べよう
- ・ご当地キャラクターってどんなのか?
- ・観光に対する具体的な取り組み
- ・自然と触れ合えばいいのに 考えよう
- ・富士裾野のためにやること
- ・ボツになったこと
- ・弱見をへらすためには → 考えよう
- ・全歩道にならばいいのに
- ・かみや姫をもっと広めればいい。なぜ広めないのか
- ・環境整備、?

— 質問してみよう



校外学習を通して疑問に思ったこと、調査したいことを書き出したものを班内で情報共有する

17 校外学習に向けて準備する⑤

授業13 校外学習で何を調査するか? KJ法で、班の課題を考えよう。
 (防災危機管理) 課() 組() 班 班長()

NO. () 訪問場所 (吉永町マリセンター)	疑問点	調査結果 授業16
	(知りたい・質問したい・見てきたい)	(行って、見て 聞いて、やって、わかったこと)
	食料をむねいには、重いから、 どのようにあつていくのら。	
	防災道具の使いこしは 高校生世代をわ	
	防災グッズあ、どのくらい どのわっているのか	
	高校生がはくは はくはしいこと	
	消火器は 役立っているのか	

前時の活動を共有し、校外学習先で調査する項目を精選する。

- ①班内で校外学習の担当場所別に、疑問点(知りたい・質問したい・見てきたい) ことを出し合う。(2~3カ所)
- ②出し合った疑問点を、調査の優先順位を検討して並び替える。
※この作業を行いやすくするために、ふせんを利用して作業した)
- ③調査結果の項目は、校外学習終了後に担当者ごとにまとめる。

【校外学習先の決定】

班ごとに様々な情報を収集するため、次のように校外学習先を分担する。

(1班の人数は4人)

- 防災** 防災A：地域防災に関する協議、危険箇所調査・・・1人
防災B：市の防災体制の説明と免震構造の見学、防災無線体験・・・1人
防災C：避難所運営シュミレーション・・・2人
- 環境** 環境A：富士山麓での廃棄物処理実習、最終処分場見学・・・2人
環境B：自動車解体・中古部品リサイクル見学・実習・・・2人
- 観光** 観光A：富士市の観光スポットの取組調査（しらす街道）・・・1人（1人）
観光B：吉原商店街の商店街振興の取組調査・・・1人（2人）
観光C：富士本町商店街の商店街振興の取組調査・・・2人（1人）
- 健康** 健康A：高齢者健康講座①への参加と参加者・講師への聞き取り・・・1人
健康B：高齢者健康講座②への参加と参加者・講師への聞き取り・・・1人
健康C：幼児・児童への体操指導者講習・・・2人

19 校外学習（3時間連続）

防災A：地域防災に関する協議、危険箇所調査



町内会長との協議①



地域の危険箇所調査①



地域の危険箇所調査②

防災B：市の防災体制の説明と免震構造の見学、防災無線体験



市の防災体制についての講義①



防災庁舎の免震構造見学



防災無線体験

防災C：避難所運営シュミレーション



県の防災担当者が指導



避難所運営シュミレーション①



避難所運営シュミレーション②

環境 A：富士山麓での廃棄物処理実習、最終処分場見学



富士山麓の不法投棄回収①



回収した廃棄物の分別



富士市の最終処分場を見学

環境 B：自動車解体・中古部品リサイクル見学・実習



企業の環境への取組の講話①



自動車解体工場見学



中古部品リサイクル作業実習

観光 A：富士市の観光スポットの取組調査（しらす街道）



漁協の取組についての講話



観光ビューローの取組についての講話



田子の浦漁港の見学

観光 B：吉原商店街の商店街振興の取組調査



商店街振興についての講話①



担当店舗でのインタビュー①



担当店舗でのインタビュー②

観光 C：富士本町商店街の商店街振興の取組調査



商店街振興についての講話



担当区画でのインタビュー①



担当区画でのインタビュー②

健康 A：高齢者健康講座①への参加と参加者・講師への聞き取り



参加者へのインタビュー



講座への参加①



講座への参加②

健康 B：高齢者健康講座②への参加と参加者・講師への聞き取り



講師へのインタビュー



講座への参加①



講座への参加②

健康 C：幼児・児童への体操指導者講習



概要説明



体操指導



幼稚園等の運動会競技指導

20 校外学習の報告をする

校外学習レポート 授業15

〔2〕HR〔 〕班 NO〔 〕氏名〔 〕

1 実施日 平成 25年 6月 11日(火)

2 実施場所 町づくりセンター

3 活動内容 (どんなお話を聞いたか・何をしたか)

町内会長さんに避難場所の数が場所、食糧や毛布などの防災グッズの状況、市民への伝達手段とその改善策、と地域であり何が心配されるかを聞くことができた。また直接話すことで「お互いに意見交換をすることもできた上、自分達は無い発想(例:海外のやり方に注目)を聞くことができた。実際に地域を回った時にはまた新しい課題を見つけることができた。

4 活動を通して気づいたこと・質問してわかったこと

地域で動くことが非常に難しいことがわかった。学校のよう組織とは違い、1人1人が違う生活をしているので情報の伝達手段はよく考えるべきだと思う。地域の防災倉庫が多く、消防関係は特に多い。お金と土地が必要になるため、作ることも新しい課題である。しかし、古くから住んでいる人が多く、地域内でのコミュニケーションが取りやすい様様。また、市立高校あたりの避難場所は津波の心配は避けられていた。課題点をまとめる、いざという時の行動のやり方は伝達手段、場所、防災倉庫としての身もより効率よく新しいものに行き方などになる。

5 まとめ (もっと詳しく知りたいこと、今後の課題だと感じたこと、提案したいことなどを書く)

地域内のイベントをよく活性化させ、内容と目的を的確に市民へ伝えた。直接伝えることで地域の情報伝達をより的確にし、スムーズにする。また、同じ地域同士が交流が深まり、自分の地域を知ることによって市民同士の協力を促すことができる。食糧や毛布は倉庫でなく取り出しやすくて対策用の施設のように、震災用の施設を建て、その保管しやすさが効率よく、多くのものを安全に管理することができ、しかし、そのためにも資金と土地が必要となることなどが問題となる。

校外学習での体験内容、気付いたこと、さらに調査したいことなどをまとめる

21 中間発表会の準備をする①②

授業13 校外学習で何を調査するか? KJ法で、班の課題を考えよう。

(防災広報管理) 課() 組() 班 班長()

NO. () 訪問場所 (市役所)	疑問点	調査結果 授業16
(知りたい・質問したい・見てきたい)	(行って、見て、聞いて、やって、わかったこと)	
富士市はどのくらい食料を保管しているのか	食料、7日分は必要 高校生は、災害時に20名程度存在。 災害時担当 12部 523名 2543人 部 A 部 B 部 C 777名 667名 1129人	
レスキュー隊員の人は優先的に何をやるのか	災害時に11の職員。情報収集、伝達、同報無線、テレビ、ラジオ、電話、防災備蓄、X-1L	
特に必要なのは防災道具は?	富士市・富士市は6箇所 富士市最大の富士市最大の富士市 J-ALERT (全国瞬時警報システム)	
レスキュー隊の人数は	消防局→スーパーバードB2→都道府県庁 →防災行政無線	
富士市役所の	富士市ウェブサイト 701650 ↓ 医師が責任者に対して11P-35行	

「17 校外学習に向けて準備する⑤」でまとめた疑問点に結果を記入する

授業16 (防災危機管理) 課 (/) 組 (3) 班
 班員氏名 ()

第2単元「具体的な地域課題を発見する」
 6月11日(火) 私たちは校外学習に出掛けさまざまなことを見聞き、体験してきました。これまでも調べ学習や講師の先生のお話を聞いてきました。これらを総合して、いよいよ富士市高校生職員として解決したい課題を何かを絞り込み、解決するためのプランを考えます。

「究タイム」で調べて 講師の先生のお話を聞いて 校外学習を通して

この数を増やす
 食料のうばい合いを 津波で避難所が 減らしたとき対策
 地域間の交流
 物資を増やす
 避難所の運営
 救護所の数を増やす

課題の中から、4つ選ぶ(何とかして解決したい! 富士市をこうしたい!)

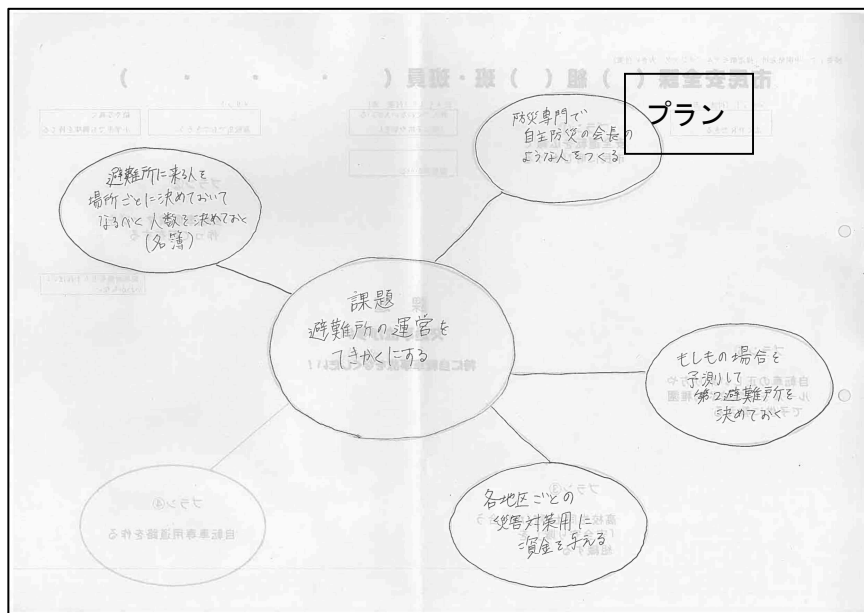
① 食料のうばい合いをなくす ② 避難所の運営を良くにする ③ 救護所の数を増やす ④ 地域間の交流を深める

プラン(解決策) 多岐 (こうすれば解決できそうだ。こんなことをしてみたら? 高校生にもこんなことができそうだ。)

①	②	③	④
各地区ごとの避難所運営に 資金を与える	防災専門の自治体職員を 養成してもらう		
避難所に避難する人を 場所ごとに決めておいて、その 人数を確保しておく。(名簿)	津波で津波避難所が減らした 時の場合の常設避難所を 決める		あいさつ 訓練を2人はんにする
			↑2月に1回くらい あつまる
			がいざん板を しっかり回す
			高校生がしゅさい

- ①校外学習レポート、まとめた調査結果をもとに、「グループで取り組むべき課題」を出し合う
- ②出し合った課題の中から、実現可能性などを考慮して4つに絞る
- ③課題の解決につながる解決策(プラン)を出し合う

23 中間発表会の準備をする②



- ①「22 中間発表の準備をする②」で4つに絞った課題を、出し合ったプランを比較してさらに2つに絞る。
- ②課題を中心に、プランを周囲に配置し、ウェブの形でまとめる
- ③プラン毎に、実施の際のメリット・デメリットを検討する
- ④それぞれのプランのメリット・デメリットを考慮し、班として取り上げる解決策を決定する。

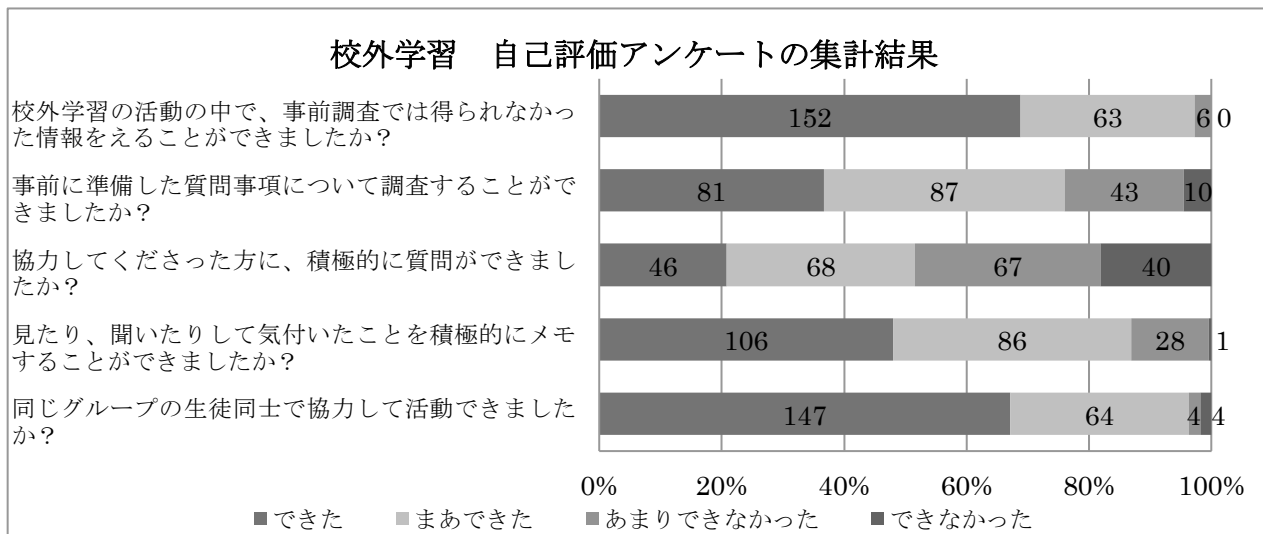
市役所プランのカリキュラム改善のポイントと効果

1 平成25年度のカリキュラム改善のポイント

本年度の校外学習は大幅に活動を見直し、地域課題の現場で生徒自身が様々なことを感じ、課題設定につなげるために、体験的な活動を設定した。それぞれの校外学習先での活動内容を下の表にまとめた。◎は今年度新たに設定した内容、○は昨年度から継続して設定されている内容である。

課	内容	体験活動	講話	聞き取り調査
防災	地域防災に関する協議、危険箇所調査	◎		◎
	防災体制の説明と免震構造の見学、防災無線体験	◎	◎	
	避難所運営シミュレーション実習	○	○	
環境	富士山麓での廃棄物処理実習、最終処分場見学	◎	◎	
	自動車解体・中古部品リサイクル見学・実習	◎	◎	
観光	富士市の観光スポットの取組調査（しらす街道）		○	○
	吉原商店街の商店街振興の取組調査		○	◎
	富士本町商店街の商店街振興の取組調査		○	◎
健康	高齢者健康講座への参加と参加者・講師への聞き取り①	◎		◎
	高齢者健康講座への参加と参加者・講師への聞き取り②	◎		◎
	幼児・児童への体操指導者講習	◎		

2 校外学習の自己評価アンケート



校外学習での取組を生徒自身が自己評価するためのアンケートを実施し、集計結果を次のグラフにまとめた。

「校外学習の活動の中で、事前調査では得られなかった情報を得ることができましたか？」の問いでは、「できた」と「まあできた」を合わせて215人（97.3%）の生徒が、校外学習先で初めて見たり、聞いたりした情報や気づきを得ることができている。インターネットで多くの情報が得られる現在でも、地域課題の現場でしか得られない情報があることを多くの生徒が体験できており、担当者が意図した活動が実施できたと考えられる。

また、「同じグループの生徒同士で協力して活動できましたか？」の問いでも、147人（66.5%）の生徒が「できた」と「まあできた」を合わせて221人（94.5%）の生徒が、協同的に活動できたことも読み取れる。

しかし、「協力してくださった方に、積極的に質問ができましたか？」の問いでは、「できた」「まあできた」の生徒は114人（51.6%）にとどまり、世代を越えたコミュニケーションを必要とする活動に苦手意識や恥ずかしさなどにより自分から積極的には行動できなかった生徒が、その他の観点と比べて多くなっている。

3 校外学習レポート

校外学習での活動内容、気づき、新たな疑問や今後の課題等をまとめた校外学習レポートから、何人かの生徒のコメントを紹介する。

① 防災

・HUG（避難所運営ゲーム）を体験してみて、実際、災害が起きたときのことを考えると対応のスピードや物の置く場所の確保ができず、混乱しそうになりそうです。これらのことを通じて、自分一人ではあまり分からないことも、みんなでやれば新たな発見や対応の仕方が多く出て、とても自分にプラスになることが多かった。

・町内会長さんのお話を聞いて、町の人たちは災害が起きた際に、高校生の力を特に必要とするというお話がとても印象に残りました。高校生にできることはとても多く、自分が積極的に動かなければ、町は守れないんだなと強く感じました。

② 環境

・実際にゴミが捨てられている現場を見て、多さとそのゴミの種類に驚きました。やはり山の方までわざわざ捨てにくる人が本当にいるんだなと思いました。テレビやまだ使われていないクリームなどもったいないと思うものばかりが捨てられていました。

・普段見ることができない車をリサイクルしている会社は、初めて知ることばかりで、多くの発見がありました。車をリサイクルすると熱エネルギーとして再利用したり、車のパーツを直してパーツを売ったり、リサイクルといっても多くの種類があると知り、びっくりしました。イワマワークスでは、廃棄物が全体の2～3%しか出ていなくて、多くの車をリサイクルしているのにすごいと思いました。

③ 観光

・今回お話を伺ったり、実際に行って伺ったことを通し課題と感じたことがある。営業者さんが奥の方に行き過ぎではないかということだ。全体的に、商品を前に出して、レジや人は本当に奥の方にいるという光景が見られた。実際自分たちもそうだったのだが、人がいるか、いないかという店は、初めて入る人には勇気がいる。常連だけではなく、これからは初めての方にも来てもらえるというのが理想になってくると感じた。

・話を聞いて、私は、すごくしらすを食べたくなった。だけど、物足りなかった。（中略）正直に言うと、市の人が言っていた「富士市にお金を落としてもらいたい」というのもあまり良くないと思う。なぜかというと、私はこの校外学習をする前に、ディズニーランドに研修に行ってきた。そこではお客様にハピネスを届けるという精神でやっていた。たとえ本心であつても、このような考え方を生かした方がいいと思った。

④ 健康

・実際に自分たちがゲームをして、自分たちが先生に上手にコントロールされていると感じた。鬼ごっこ系のゲームでは、鬼はいつも先生で、追いかけるけど絶対に捕まえることはしなかった。（中略）幼児の指導をするには、子供たちの興味をひいたり、安全に遊ばせたり、全員を楽しませたりと、やらなければならないことがたくさんあって大変だと思った。

・今回の活動で感じたことは、高齢者の人たちの健康についての意識がとても高いということです。（中略）もっと健康で生活を送るために、このような体操などを行うイベントを増やしていき、高齢者だけでなく、青年の人やたくさんの人たちに健康で長生きができるように呼びかけをするように提案したい。

4 改善の効果

校外学習に体験的な活動を取り入れたことにより、体験からしか感じられない強い実感を持って、様々な情報を収集できたことが伺える。レポートには、解決したい課題をすでに発見できている生徒も見られた。その他にも、生徒たちは、校外学習において、教員の期待する活動が概ねできていたことが、アンケートの結果からはっきりと示された。

このように体験を通して感じた強い課題意識を班員相互で共有し、課題解決に向けた協同的な活動を通して、「社会参画できる力」の育成につなげていきたい。この単元を通して、社会参画につながる、地域課題に対する考え方や、自ら課題解決しようとする態度が、どのように変化したのかを評価し、次年度のカリキュラム改善につなげていきたい。